



IFA2019 国際コンシューマ・エレクトロニクス展

会期：2019年9月6日（金） - 9月11日（水）10時～18時

#coinnovation

IFA2020
次回 2020年
9月4日-9月9日
ifa-berlin.com



IFA2019 2019年9月6日-9月11日

毎年ドイツの首都・ベルリンで開催される「IFA」はエレクトロニクスに関連する最先端のイノベーションとビジネスチャンスに巡り会える世界最大のグローバルイベントだ。ジャーナリスト・山本 敦が2019年のIFAの展示を振り返りながら、2020年に向けた“賢いIFAの回り方・楽しみ方”をガイドする。

IFA2020

2020年 9月4日-9月9日

ifa-berlin.com

エレクトロニクスと5G・AIのつながりに明快な答えを示した

エレクトロニクスの業界に関わる方であれば、もはやIFAを知らないはずはないだろう。世界最大のエレクトロニクスショーであるIFAには、展示各社が年末商戦の主力として発売を予定する製品が一堂に集まる。活気あふれる会場には一般来場者だけでなく、世界中から多くのトレードビジターも集まり、熱い商談が繰り広げられる。今年で初開催から3年目を迎えたIFA NEXTにもさらに多くのスタートアップが加わったことから、3年~5年先のエレクトロニクスの未来を先読みできるイベントとして、IFAの独自性はますます強くなっている。

IFA2019では「5G」「AI」「コネクテッド」という3つのテーマが脚光を浴びた。IFAの出展社がインターネットにつながる「コネクテッド家電」を展示するようになって数年以上も経つが、今年は各社のラインナップがハイエンドモデルだけでなく、より安価なスタンダードモデルにまで広がっていたことに筆者は注目した。コネクテッド家電は欧州の生活者の環境に根を張りつつあった。これから急速に伸びそうな勢いも感じられた。

次世代の通信技術「5G」が、コネクテッド家電の成長を後押ししそうだ。2019年のIFAには5Gの普及を先頭で牽引するキーパーソンと最新製品が集結した。IFAの開催に合わせて、ドイツの大手通信

事業者であるT-モバイルは家庭向けを想定した5Gのプレサービスをドイツでスタートさせた。一般来場者の関心も強く引き付けられているように見えた。

AI（人工知能）とエレクトロニクスがつながりを深める様子もIFAの展示から明らかに知ることができた。AIが果たすべき役割とは、何より機能が複雑化する家電機器のユーザーインターフェースを改革することであるという、ひとつの明快な道筋が見えたように思う。スマートフォンやスマートスピーカーから搭載が始まった音声操作のインターフェースは、テレビをはじめ冷蔵庫やIHクッキングヒーターなどの生活家電と連携しながらユーザーの暮らしを頼もしくアシストするところまで変貌を遂げつつある。

そして2019年はIFAにとって「ジャパニヤー」だった。IFA NEXTが初めての試みとして挑んだ「グローバル・イノベーション・パートナー」に選ばれた日本から約20社が出展。リアルな日本の現在地を象徴する製品やサービス、テクノロジーが大いに注目を浴びた。

エレクトロニクスの最先端を未来へと伸びる時間軸に沿って、また国境を越えて一望できるイベントとして、2019年もIFAは周囲の期待に対して完璧に答える内容をお私たちにを見せてくれた。

エレクトロニクスの最先端技術がベルリンに集まる6日間

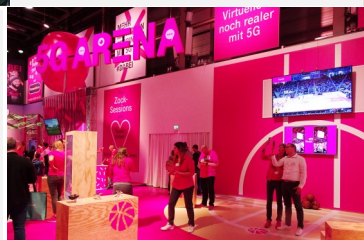


ソニーのブースは毎年IFAに出展するメーカーの中でも最も広く、たくさんの来場者で賑わうブースのひとつ。今年はウォークマンやデジタルカメラの新製品も注目を浴びた。



パナソニックが展示した透明有機ELディスプレイを使った家庭用テレビのコンセプトモデル。インテリアとしてもリビングに溶け込む柔らかなプロダクトデザインがとても洗練されていた。

ドイツの通信大手であるT-モバイルはIFAの開催に合わせて国内5都市で5G通信のプレサービスを開始。ブースでも動画配信やゲーミングなど様々な将来への展望を見せた。



アマゾンもBtoBパートナーを獲得するために毎年大きなブースをIFAに展示する。ジャーナリストにとってもAIアシスタントのAlexaに対応するエレクトロニクス機器が一望できる貴重な機会だ。



欧州で普及が進んでいたコネクテッド機能

毎年IFAには欧州最先端のAIを搭載するコネクテッド家電が集まる。その内容を一望することによって、これからのエレクトロニクスに必要な生活提案やテクノロジーのあり方が浮かび上がってくる。筆者が注目したIFA2019の展示をいくつかのカテゴリーに分類しながら紹介してみたいと思う。

日本に住む方にとって、ボッシュとシーメンスがドイツを代表する世界規模の総合家電ブランドであることはあまり馴染み深くないかもしれない。両社の提携により創業され、今はボッシュのグループ傘下の企業であるB/S/H (Bosch Siemens Hausgeräte) が、2019年のIFAに出展したブースにはインターネットにつながるコネクテッド家電が所狭しといわんばかりにあふれていた。両ブランドが展開するコネクテッド家電のための共通プラットフォーム「Home Connect」にも、多くのハードウェアやサービスのベンダー企業が参加する。

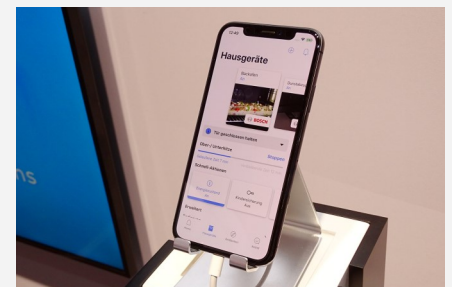
冷蔵庫や洗濯機など生活家電については再び「静音設計」や「省電力」など本質的な価値に回顧する動向も見られた。大きな意味でのインターフェース改革を伴いながらコネクテッド家電の成長は今後もヨーロッパでさらに勢いを増しながら、人々の生活により深く溶け込んでいくであろう、粘り強さを感じさせた。



シーメンスは幅広いカテゴリーの家電製品にWi-Fiの機能を乗せて「Home Connect」アプリや、製品によってはスマートスピーカーによる音声コントロールに対応するものを増やしている。



ボッシュのプレミアムラインのホームアプライアンスは静音設計を特徴としてアピールしていた。写真はブースの中に厚い外壁で囲われた特設展示スペースに並んでいた新製品の数々。



ボッシュとシーメンスが展開する「Home Connect」アプリは年末までにインターフェースとコンテンツのリニューアルを予定している。

スマート家電が実現する「豊かな暮らし」が見えてきた

IFAの展示分野はオーディオ・ビジュアルからホームアプライアンス、スマートフォンなどの通信端末にパソコンまでエレクトロニクスのあらゆるカテゴリーをカバーしている。昨年からはインターネットにつながって便利なサービスの数々を利用できるコネクテッドカーにまで分野を広げ、それぞれのテクノロジーや製品が「つながる」ことによって生まれる豊かな暮らしの未来図を鮮明に描き出せるところがIFAの独自性である。

2019年はソニーやサムスンの最新スマホが発表され、タッチ&トライのコーナーが大いに賑わった。スマホ連携の機能を完全に取り込んだ伊・キャンディのモバイルアプリ「Simply-Fi」のインターフェースはとて洗練されていた。

そして毎年パナソニックが展示する未来のスマートホーム提案は、今年は生活者の「生体データ」を有効活用するソリューションと、具体的な家電製品に落とし込んだ際のイメージも明確化され見応えがあった。



ソニーが発表したプレミアムな機能をハンディサイズにまとめたスマートフォン「Xperia 5」。Xperiaは欧州でも人気のシリーズだ。



パナソニックは生活データをセンサー等で取得。ヘルスケアを目的としたスマート家電による健康な暮らしを提案するコンセプトを見せた。

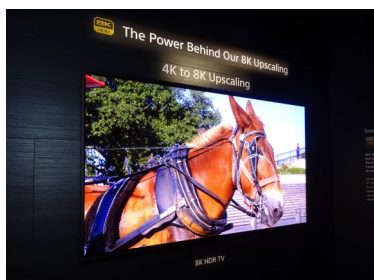


CANDYのスマート洗濯機は洗濯物をスマホのカメラで撮影してクラウドに送信すると、内容に合わせて洗い方のコースを自動設定してくれる。

8K

日本では2018年12月にNHKによる8K放送が始まり、一般のコンシューマーが自宅で視聴できるネイティブ8Kコンテンツがある。これを楽しむための8Kテレビはシャープが先行して国内でも商品化を果たした。同社は2019年のIFAで120インチの8Kテレビの試作機を発表した。画面のサイズが大きいだけに、シャープのスタッフはコンシューマー向け製品としての展開は検討中と述べていたが、トレードビジターからは早速引き合いがあったそうだ。

ソニーはアメリカに続いて欧州でも8K対応のブラビアを発売した。欧州には8Kのネイティブコンテンツがまだない。そのため4K未満のコンテンツをテレビ側で画素変換をかけて高画質に表示するアップコンバート機能の出来映えがものをいう。ソニーのほか、欧州で8Kテレビを発売するサムスン、LGエレクトロニクスがブースで同様に変換技術の巧みさを競い合うように展示していた。ほかにも海外のブランドが8Kテレビを見せていたが、やはり完成度においては先行4社の優位は明らかだったと思う。来年以降も各社の競争が楽しみだ。



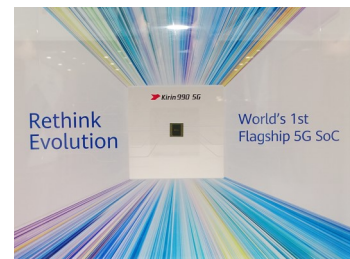
シャープはBtoB向けの展開を想定して120インチの巨大な8Kディスプレイを開発、IFAで発表した。さっそく期間中に海外のディーラーから受注が寄せられたそうだ。ソニーも欧米で発売した8Kテレビを展示。アップコンバージョン表示の出来栄は圧巻だった。

サムスンは8液晶テレビの多彩なサイズ展開をアピールする。ブースではやはりアップコンバージョン表示の画質を紹介していた。LGが発売を予定する液晶テレビは真の8K高画質を強調していた。

5G

IFAのインターナショナルキーノートにクアルコムのアモン社長と、ファーウェイのデバイスグループのトップであるユー氏が登壇することが春には早々と発表されたことから、IFAに「5Gの最新事情」を探りに足を運ぶジャーナリスト、トレードビジターが数多く押し寄せた。それぞれの講演は「いまここにある5G」の現実を強烈に印象付ける内容だった。そして来場者を大いに引き付けていたと思う。

ブースの展示に目をやると、5G対応のコンシューマーデバイスがもう商品として並んでいたことのインパクトも大きかった。サムスンはIFAの会期中に韓国で発売、10月に欧州にも投入する“折りたたみスマホ”の「Galaxy Fold」を、一般来場者が手に触れられる状態で展示した。ハンズオン会場には常時長蛇の列が作られた。5Gのスタート当初は高値になると言われている端末を、サムスンは既に10万円を切るスタンダード価格帯に落とし込んだ「Galaxy A90」も出展していた。5Gについては2020年には欧州でも本格的な商用サービスが立ち上がることから、IFAの展示は見逃せないものになりそうだ。



サムスンは折り畳み有機ELディスプレイを採用する「Galaxy Fold」と安価な価格帯に落とし込んだ「A90」、ふたつの5G対応スマホとしてヨーロッパでも一般のコンシューマーが購入できる“商品”として出展していた。

LGは5G対応スマホ「V50S ThinQ」を発表。専用アクセサリートのDual Screenを装着すると折り畳みスマホのように使える。

ファーウェイのKirin 990はSoCに5G対応のモデムICまで一体化しながら省電力設計を実現したフラグシップ向けの半導体ICとして発表された。

AI/コネクテッド家電

冷蔵庫や洗濯機など生活家電のコネクテッド化についてはボッシュとシーメンスが欧州の市場を先頭に立ってリードしている。プレミアムブランドのミーレも既に生活家電のほぼすべてのカテゴリーをコネクテッド化したという。特にキッチン家電はAmazon Alexaによる音声操作を組み合わせながら、ユーザーの調理をアシストする「Cook Assist」のサービスを来春から立ち上げる。ブースで紹介していたデモンストレーションにも熱い関心の目が注がれていた。

フィリップスは睡眠時の健康をAIによってサポートする「スリープテック」の新商品として「Sleep Belt」を発表した。小型のスマート家電の分野にヘルスケアの観点から独自の活路を見つけようとしている。

パナソニックは自宅で普通に生活するユーザーの生体データを様々なセンサーによって取得して、ビューティーケア、ヘルスケアのための特別なサービスに活かす未来のスマートライフを巧みに演出しながら見せた。展示した製品も今から数年先の未来を見据えたコンセプトモデルだが、提案は力強いものであり、模型とはいえデザインが秀逸だったことから、欧州だけでなく日本でもぜひ実現してほしいと期待を寄せずにいられなかった。



ミーレはキッチンまわりの調理家電がAlexaによる音声コントロールに幅広く対応している。2020年にはそれぞれの機器をアプリや音声コントロールで連動させる「Cook Assist」をローンチ予定だ。



シーメンスのオープンやエスプレッソマシンなどの家電はGoogleアシスタントにAlexa、そしてT-モバイル独自のMagentaを含む3つのAIアシスタントによる音声操作に対応している製品が多くあった。



フィリップスが発表した「Sleep Belt」は腹部と胸の間ぐらいの位置に装着した状態で眠りにつくと、いびきや寝相を改善してくれるというユニークなスリープテックデバイスだ。



パナソニックは日々暮らす中でスマートホームが取得したデータを活かして、生活者の美容や健康を増進するスマート家電のコンセプトを紹介。今後5年以内を視野にコンセプトの具現化を目指す。

注目の新カテゴリー

ほかにもオーディオの分野では国内でも盛り上がるワイヤレスイヤホンの新製品がIFAに集まった。来場者が手に取って音を聴ける展示も多いことから、特に若い音楽ファンがブースの試聴展示に列を作っていた。セグウェイや中国のシャオミは、ベルリンの市内でも一気にあふれかえった「電動スクーター」の新製品を展示。試乗スペースは常時賑わいを見せていた。

元々自然環境の保護に対して意識の高い欧州だからこそ、自分が必要なだけの野菜やハーブを収穫できる「スマート栽培キット」がブームになっていることは当たり前のように思えるが、ボッシュのような大手メーカーも力を入れてこれに取り組んでいる。エコなライフスタイルへの関心は欧州でまた一段と強くなりそうだ。



左右の本体がケーブルから完全に独立したデザインの、いわゆる完全ワイヤレスイヤホンはいま世界中でブレイクしている。オーディオテクニカなど人気ブランドがIFAで最新製品を発表した。



電動キックボードはベルリンをはじめ、ヨーロッパの大都市で市民や観光客の足替わりとして急速に普及が進んでいる。シャオミやセグウェイなどのブランドから最新モデルがIFAに出展された。



ボッシュもスマート栽培キットを昨年からのブースに展示している。タンクに水をセットして光を当てただけで、ミニ野菜やハーブの収穫が手軽に楽しめる。



eスポーツのブームも少しずつIFAの会場内で目立ち始めていた。PC系の出展社、あるいは若い来場者向けのゾーンではeスポーツの体験ゾーンが人気を集めていた。

IFA NEXTに初めてのジャパン・パビリオン誕生

2017年に始まったIFA NEXTは世界各国のスタートアップや最先端のIT企業がイノベーションを持ち寄る特設展示だ。2019年に初の試みとして「IFA NEXTグローバル・イノベーション・パートナー」が実施され、最初のパートナー国に日本が選ばれた。

IFA NEXTの展示ホールに入るとすぐに、20社が軒を連ねる「ジャパン・パビリオン」の華やかな展示が来場者を迎えた。

会期中の9月7日には経済産業省 商務情報政策局長の西山圭太氏がスピーチを行い、ジャパン・パビリオンのコンセプトである、サイバーとフィジカルの空間が高度に融合する新しい時代のヒューマンインタフェース改革をアピールした。いま日本は観光や文化だけでなく技術的イノベーションの観点からも海外の方々に注目されているとしながら、西山氏は国内企業が海外に向けて、独創的なテクノロジーやアイデアの強みを発信していくことの大切さを説いた。

2019年は日本から多くの出展者が集まり、熱気あふれる展示を見せた。各社がIFAを舞台に世界へ力強く羽ばたこうとしている姿は、日本人である筆者にも大変誇らしく思えた。この勢いが2020年以降にもつながっていくことを心から期待したい。



IFA NEXTの会場に経済産業省 商務情報政策局長 西山 圭太氏（写真中央）が足を運びステージでスピーチを行った。その後に行われたメッセ・ベルリンのハイテッカー氏とのトークセッションも好評だった。



「IFA NEXTグローバル・イノベーション・パートナー」に選ばれた日本のブースの一部。IFA NEXTの会場となるホール26の正面で堂々と来場者を迎えた。



IFAの開催期間中はメッセ・ベルリン会場の至る所に日本の国旗が掲げられIFA NEXTグローバル・イノベーション・パートナーのプロジェクトが大々的に紹介されていた。

西川氏とハイテッカー氏による日独トークセッションも開催

7日にIFA NEXTの会場で開催された西山氏によるスピーチのあと、メッセ・ベルリンのIFA統括本部長であるイエンズ・ハイテッカー氏とのトークセッションも行われた。ハイテッカー氏は「世界各国から今年のIFA NEXTに集まった方々も、ジャパン・パビリオンに足を運んだことによって、自分が暮らす国から見ていなかったリアルな今の日本に触れていた」として、パートナーシップの成功がIFAの来場者に日本への関心を誘うきっかけになったことに喜びを感じていると伝えた。

IFA NEXTの出展を振り返る

日本のスタートアップの方々が世界に挑戦して、自らの強みとするものを堂々と海外の方々に伝えている姿をととても頼もしく感じました。いまエレクトロニクスの分野に限らず様々な舞台では競争があり、もはや日本の製品やテクノロジーが何もなくても周りから注目してもらえない時代ではありません。日本がIFA NEXTのパートナー国に選ばれたことをとても誇らしく感じています。これがまた次に日本のイノベーションを伝える機会につながってほしいと思います。

経済産業省 商務情報政策局 局長 西山 圭太氏

今回、「日本」がIFA NEXTでの初めてのパートナー国として選ばれて参加しました。J-Startupの7社をはじめとする20社がJAPANパビリオンでデモを行い、3社がピッチイベントで優勝するという快挙を収めることができました。日本が持つ革新的な技術やビジネスモデルで世界に新しい価値をもたらすため、JETROは今後も日本のスタートアップ企業の海外展開をサポートし、世界で勝てるユニコーン企業の創出に貢献して参りたいと思います。

日本貿易振興機構（JETRO）イノベーション・知的財産部スタートアップ支援課 課長 西川壮太郎氏

IFA NEXTジャパン・パビリオン：フォトレポート

2019年のIFA NEXTジャパン・パビリオンには20社が参加した。各社が展示した、どこかに「日本らしさ」が垣間見える製品とサービス、テクノロジーには世界各国からベルリンに集まったジャーナリスト、トレードビジターが大いに関心を寄せていた。IFA NEXTが開催された6日間を通して各社のブースには絶えず熱気が漂っていた。

凸版印刷



5G通信の時代を想定して、遠隔地にいる人物とVRシアターを通じて日本の「盆踊り」をともに踊るリモートレッスンの体験ブースが好評。新たなインターフェースの可能性を見せた。

Shiftall



ビールなどビンに入った飲み物が減ると、内蔵するセンサーが重量を検知して残数をリアルタイムにカウント。自動補充するスマート冷蔵庫「DrinkShift」が話題を呼んでいた。

エアロネクスト



独自の重心制御技術「4D Gravity」は次世代のドローン向けアーキテクチャ。将来は人が乗るような空飛ぶドローンにも応用ができるという。

トリプル・ダブリュー・ジャパン



身につけると排尿のタイミングが予測できるという介護支援用ウェアラブルデバイス「Dfree」を2018年に続きIFA NEXTで展示。同社の欧州展開は着実に拡大しているようだ。

Neu



NIRS技術で脳血流量の変化を通して脳活動を測定する世界最小・最軽量の脳活動測定装置「ExBrain XB-01」。多様な用途展開が期待できそうだ。

mui lab



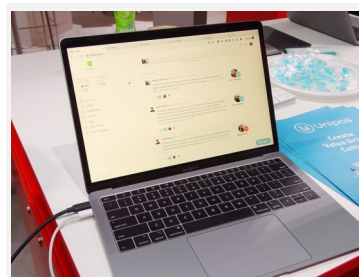
一見すると普通の角材のように見える本体に触れると、LED照明が文字やアイコンで情報を表示するコミュニケーションツール「mui」。

ユニファ



乳幼児のお昼寝を体の姿勢をセンサーで検知しながら見守れるアプリとポジショントラッカー「ルクミー午睡チェック」。保育園をはじめ子育てを支援する業務関係者から注目を集めた。

Unipos



職場の仲間とオープンに送り合う成果給ピアボーナスのソフトウェアを開発。欧州も含めて、現在グローバルで250社以上の企業に導入が広がっているという。

ピクシーダストテクノロジーズ



独自の波動制御技術を活用した独自性の豊かなプロダクトやソリューションを提案。超音波を制御することで「点音源」を実現するスピーカーがとてもユニークだった。

ラングレス



愛犬が喜んだり、ご機嫌斜めだったり、心理状態を背中に着たLEDランプの変化が教えてくれるペット用ウェアラブルデバイス「INUPATHY」。愛犬家の多いドイツでも好評を博していた。

欧州スタートアップのトレンドに触れられるIFA NEXT

3回目の開催を迎えたIFA NEXTは、世界のハードウェア・スタートアップのトレンドが見渡せるイベントだ。出展各社が開発を進めるハードウェアの数々を見て、触って体験できるプロトタイプや模型が数多く揃っている。頭の中のアイデアだけでなく、実体のあるプロダクトがこの場所に数多く展示されているため、一般来場者のみならず、世界各国から集まるトレードビジターの関心も非常に高い。

2019年の展示を見た筆者の印象は、これから世界で増え続けることが予想される食糧問題に備えた自給自足を提案する水耕栽培機やドリンクのディスペンサーなど、楽しみながらエコライフを過ごすための提案が光っていたように思う。欧州の人々の中で空気清浄機への関心は年々高まっているようで、スタイリッシュなデザインの空調関連機器の出展も増えていた。



世界各国から集まったスタートアップ、IT企業がところせましとブースを出展するIFA NEXT会場のホール26

またIFAの会場を離れてベルリンの街中を歩いてみると、2019年は電動キックボードや電動自転車のシェアサービスが市民の生活により深く浸透していた。IFAの滞在期間中にベルリンの街を広く回ってみることで、大都市におけるパーソナルモビリティの在り方を考える材料が見つけれられるのではないだろうか。



イタリアトスカーナから出展したスタートアップは、ワインをいつも最高のコンディションで楽しめるスマートディスペンサーを商品化。



こちらもイタリアのスタートアップが開発。植物の鉢と一体化したスマート空気清浄機「Natede」。アプリで空気の質も可視化できる。



ベルリンの市内でも電動キックボードのシェアサービスが大流行していた。IFAに足を運んだ際にはぜひ体験してみるとよいだろう。

急成長を続けるコネクテッドカーのイベント Shift Automotive

2018年に始まったイベント「Shift Automotive」は、コネクテッドカーに関連するスマートテクノロジーをテーマとして2回目の開催となった。9月10日・11日の2日間に渡る日程の中では業界の有識者による基調講演やトークセッションのほか、2019年には初めてホール26に富士通やダイムラーが出展するエキシビジョンスペースが設けられた。それぞれが強みとするコネクテッドカー向けのセンシング技術、カーシェアリングのサービスはととても見応えがあるものだった。

Shift AutomotiveはIFAとスイスのジュネーブで開催されるモーターショー「Salon International de l'Auto (ジュネーブ・モーターショー)」と交互に、1年に2回ずつのペースで行われる。安全でエコフレンドリーなモビリティに注目が集まる欧州において、エレクトロニクスと自動車産業がチームを組みながら持続可能性の高いエコシステムを構築していくために必要なインスピレーションを与えるイベントとして、今後もさらなる発展が期待できそうだ。



2019年はカンファレンスからブースの展示にまでさらに拡大したShift Automotive。富士通やダイムラーがそれぞれにアピールする技術やサービスを一堂に出展して注目を集めていた。

IFAにご出展された方々のコメント

IRIS OHYAMA Europe B.V. President 海野 正高 氏

当社の欧州進出は今から21年前に遡ります。現在はドイツにフランス、ポーランドをはじめ東欧諸国を中心に広く展開しています。IFAには2019年に初めて出展しました。サーキュレーターなど空調関連機器はジャパン・デザインの商品を手頃な価格でラインナップしていることからご関心を頂戴しました。トレードビジターの皆様との商談も好調でした。2020年の出展も前向きに検討したいと考えています。

ソースネクスト株式会社 ビジネスディベロップメントGroup 篠田 竜一 氏

昨年に続いて2年連続でIFA NEXTに出展いたしました。今年もまた74言語対応のAI通訳機「POCKETALK（ポケットーク）」を世界各国から来場された皆様にご紹介して、大変良い反響をいただきました。昨年は出展期間中だけでなく、出展後にも非常に多くの問い合わせを頂戴しました。おかげさまで現在はアメリカ・ヨーロッパ・アジアでポケットークを扱っていただいております。今年も昨年以上の良い成果を確信しております。

エシマテック株式会社 開発部 主任 土方 嗣夫 氏

IFA NEXTには3年連続の出展になりますが、年々とても良い反響をいただいております。欧州の家電メーカー様から当社の技術と商品に興味・関心をお持ちいただいておりますが、2019年は日本から視察に来られた方々との間にも多くの商談機会を持つことができました。これまでの出展経験を活かしながら、IFAにフィットする形で当社の商品ラインナップや技術をうまく見せるノウハウも成熟してきたことが、よい成果につながっているのだと思います。

株式会社クリエイティブテクノロジー 取締役 総務部長 清水 隆行 氏

ホームアプライアンスのエリアに3年連続出展しました。当社が得意とする静電気のテクノロジーを活かした独自の製品やサービスの品質を高く評価していただけることから、ここに毎年足を運んでくださる欧州のトレードビジターの方々が年々と増えています。当社の製品は既に英・独・西・伊など欧州の先進国でお取り扱いをいただいておりますが、今後もさらなる広がりが期待できそうです。

IFAをご視察された方々のコメント

一般社団法人 日本電機工業会 IFA視察団代表

パナソニック株式会社 アプライアンス社 渉外部 部長 永原 圭司 氏

欧州の大手メーカーを中心に調理家電が数年前と比べてまた進化、充実していました。特に家電の存在感をインテリアと上手に溶け込ませながら、生活を彩るビルトインプロダクトのデザインに欧州における家電市場の成熟を感じました。AIは家電が元から備えている機能をさらに使いやすくする方向で、自然な形の融合を遂げつつあるようです。省エネ性能、耐久性や静音設計など、家電の本質的な価値に焦点を当てたメーカーの提案が来場者に響いていたように思います。

株式会社蔦屋家電エンタープライズ 執行役員 吉崎 真矢 氏

2019年は4度目の視察になりました。出展を振り返ると、家電ホームネットワークの提案も落ち着き、5Gはまだ具体的に落とし込めていない印象を受けました。一方で「My Style（自分らしさ）」や海外トレンドの一つである「水耕栽培」などの提案にヒントを得ました。日本がIFA NEXTのパートナー国ということもあり、スタートアップ全体がより充実し、面白いプロダクトを発掘できました。続々と対応製品が発表されたことで8K時代の到来も予感しました。2020年も視察を予定しています。

株式会社NTTぷらら コンテンツ事業本部 サービス戦略部 コマース担当 青木 伸寛 氏

当社はこのたびパートナーである卸企業様にご協力をいただきながらIFAを視察しました。当社の各店舗のブランディング向上に役立つ新商品を探しつつトレンドを俯瞰すること、並びに現地での商談が目的です。インテリアの側で多彩なアプローチが見られたり、従来のテレビを含めてリビングにダイニング、キッチンにおける暮らしを豊かにする様々な商品に触れることができました。IFAで獲得した商談の成果は今後、NTTぷららの国内市場戦略を構築する上で重要な糧になると思います。

IFA Keynotes 2019：エレクトロニクスの最先端が見えるステージ

今をときめく業界のキーパーソンがエレクトロニクスの展望を語る「IFAキーノート」には、2019年もまた豪華な顔ぶれが揃い、デジタルテクノロジーが向かうべき未来へのパースペクティブを示した。

オープニングを飾ったファーウェイからは2年連続でRichard Yu氏が登壇。5G時代の到来に合わせたモバイル向けのフラグシップSoC「Kirin 990 5G」を発表。高度なAI機能を実現する人工知能専用チップや5Gモデムも統合しつつ、高密度化・省電力化を図ったSoCの革新性をアピールした。

米半導体大手クアルコムのCristiano Amon氏は、5G対応をフラグシップからミドルレンジのモバイル向けSoCまで広げる戦略を発表。同社の通信半導体を採用する5G対応モバイル端末が急速に増えていることや、2020年にはオートモーティブ、IoTの方面にも展開が期待できることなどを述べた。

TVストリーミング端末「Roku TV」は米国で高いシェアを誇っている。同社のAnthony Wood氏は現在普及が進むVODサービスのトレンドを先取りしながらプラットフォームを充実させていくと宣言した。

欧州の家電大手であるBeko、Grundigなど12のブランドを束ねるアルチェリッキグループのHakan Bulgurlu氏は、今後のエレクトロニクス製品は技術力だけでなく、人にやさしいインターフェースと心地よいサービスも同時に追求していくべきと説いた。



IFA2019 Keynotes 参加企業 ファーウェイ/クアルコム/Roku/アルチェリッキ

IFA+Summit：5GやAIの展望をより広く・深く知る

IFA+Summitはこれから10年先のデジタル社会の展望を業界のキーパーソンとともに共有し、語り合うことをコンセプトとして2015年にスタートした。2019年も2日間に550名を超える参加者を集めて大いに賑わった。

日本からは楽天モバイルが参加し、同社による世界初の完全仮想化ネットワークの技術を紹介。欧州の先進国でも高い知名度を誇る「Rakuten」の講演に多くの来場者が足を運び、熱心に勝田賢介氏のプレゼンテーションに耳を傾けていた。



楽天モバイル株式会社 事業戦略本部 5Gビジネス・イノベーション部 シニアマネージャー 勝田賢介氏

当社が取り組む世界初の完全仮想化ネットワークを参加者の皆様に広く知っていただく良い機会にしたいと考えてIFA+Summitに出展いたしました。IFAは家電のイベントというイメージを持っていましたが、各社の5Gへの取り組みや最新技術への可能性を肌で感じられて、当社としても刺激を受けました。大手総合エレクトロニクスメーカー様の展示が、単独のプロダクトからネットワークを介して展開されるサービスにまで多岐に渡っていたことも、通信事業者として興味深く感じました。

欧州最大の調達市場 IFA Global Markets

IFA Global Marketsはベルリン中心のイベントホール「STATION-Berlin」で毎年開催されるBtoBトレーディングプラットフォームだ。世界最大の調達市場展示会として、OEM/ODM系の出展社が多数集まる展示エリアは毎年拡大の一途をたどっている。エレクトロニクスに関わる幅広いカテゴリの要素技術、部品にソリューションなどの展示に触れられることもあり、毎年こちらの会場でも世界各国から集まる出展社とトレードビジターによる熱い商談が交わされている。IFA期間中はメッセ・ベルリン本会場との間にトレードビジターが無料で利用できるシャトルバスも運行される。こちらも活用しながら足を運んでほしい。



インタビュー

これからも続く「共創=コ・イノベーション」をサポートしたい

IFA2019ではAI・5Gに代表される先端テクノロジーと結びつくエレクトロニクスの展望が明快に示されたのではないのでしょうか。AIを搭載するコンシューマー機器に対して様々な受け止め方があることは私もよく存じ上げています。私が強調したいことは、一般消費者の生活の中にはAI、あるいはこれと連携するスマート家電がもう深く根付き、必要な用途を見つけて巧みに使いこなしている方も大勢いるという現実です。

2019年のIFAにはスタンダードな価格帯のAI搭載家電製品が数多く並びました。いま、私たちが家庭でインターネットを当たり前にあるインフラとして活用しているのと同じように、近い将来は家電に搭載されているAIやボイスコントロールを誰もが当たり前のように使いこなすようになるでしょう。実際に消費者の反応を横目に見ながら、リアリティを実感できるイベントがIFAなのです。

今年から開始したIFA NEXTグローバル・イノベーション・パートナーというプログラムは私たちにとっても大きな挑戦でした。初回のパートナーである日本の皆様と一緒に大きな成功を納められたことを誇りに思うとともに、深く感謝しています。IFAに足を運んだ大勢の方々も、ふだんは情報媒体を通して見聞きしていた「今の日本」を、テクノロジーから人々の考え方まで広く・深く知るよい契機になったはずです。

2019年のIFAは“コ・イノベーション=共創”というテーマを掲げてまた大きな成長を遂げることができました。この勢いを必ず2020年にも良い形でつなげたいと思っています。ぜひまた皆様とベルリンでお会いできることを楽しみにしています。



メッセ・ベルリン社

IFAグローバル統括本部長
イエンズ・ハイテッカー氏

ジャーナリスト・山本敦が予想する「IFA2020」の見どころ

IFA2020は日本でも東京オリンピックが開催された直後になるため、エレクトロニクスの展望が大きく様変わりしている可能性がある。5Gの商用サービスについてはより具体的なものが見られると思うし、AIやスマートモビリティを活用したビジネスも走り始めているだろう。IFA NEXTグローバル・イノベーション・パートナーの成功を受けて、IFAでまたさらに多く日本から出展される製品やサービス、テクノロジーと出会えることを楽しみにしたい。

スマート家電については2019年にハードウェアの普及が一気に進んだことから、IFA2020年には「スマート家電を便利に楽しむ」ためのサービスとアプリケーションが数多く展示されるのではないだろうか。スマート家電も「モノからコト」へ競争の軸がシフトしつつある。その最前線をIFAで目の当たりにできる期待も膨らんできた。

IFA NEXTの出展希望は毎年増え続けているようだ。もしかすると2020年はホールのキャパシティをさらに拡大して、大規模に実施される可能性もあるのではないかと筆者は見ている。日本のスタートアップやIT企業にもぜひ続けて参加してもらいたいと思うし、視察を検討されている方はIFA NEXTを見逃す手はないだろう。ブース展示にも規模を拡大したShift Automotivはさらに飛躍を遂げそうな勢いを感じさせた。毎年ヒートアップする「IFAの6日間」を、ぜひ自身の肌で感じるためベルリンに足を運んでほしいと思う。



取材・文 山本 敦

IFAを16年以上取材してきた、オーディオ・ビジュアルからスマート家電まで幅広くカバーするフリーランスジャーナリスト。

JAPAN

Global Innovation Partner



Bundesarchiv, Bild 102-10300
Foto: v. Ang. / August 1933

メッセ・ベルリン日本代表部

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-56 ドイツ文化会館4F mbj(株)

Tel: 03-6426-5628 info@messe-berlin.jp